

本の紹介



「ダムに沈む村」

豊田政子 著

上毛新聞社 出版

定価 1,260 円（税込み）

あとがき から抜粋

吾妻溪谷の新緑がすばらしい五月、思えば今年の夏のように暑い日でした。学校から帰ると上がり框で、祖父からはじめて「ダム」という言葉を聞きました。昭和二十七年、私は十六歳、高校一年生でした。

村人は五十三年間もの永いダム騒動の苦悩を背負わされ、国の水没宣言の重圧と対峙して、苦しい日々明け暮れました。ダムは水没住民の犠牲の上に、自然破壊、人間不信の国策によって造られると言えます。

ふるさとがダムの湖底に沈むというほど、辛く悲しいことがあるでしょうか。

私の住んでいる集落は今、着々と八ッ場ダムの工事が進んでいます。その音の中で暮らして数十年、消えゆくふるさとへの想いを詩に託してきました。